

富士見市の地理

■富士見市の誕生日

富士見市は、昭和47年（1972）4月10日富士見台中学校体育館において市制施行記念式典が挙行され、埼玉県下35番目の市として「富士見市」が誕生しました。当時の人口は、5万9265人でした。翌年9月3日から新庁舎（現在の市庁舎）が業務開始されました。平成23年（2011）4月1日現在、県内の市は40市を数えます。

※富士見市の市章



富士見市の市章は、昭和41年（1966）5月1日制定（当時は町章）されました。3本の同心円上の線が描かれており、中央に富士の見える市ということで富士をおき、周囲に3本の川（荒川・新河岸川・柳瀬川）と旧3カ村（鶴瀬村・南畑村・水谷村）の合併を意味した円を配し、富士見を象徴（しようちょう）したものです。

■地理的位置

富士見市の地理的位置は、埼玉県の東南部、首都30km圏に位置し、東は荒川・びん沼川を隔てた、さいたま市、北は川越市・ふじみ野市に、西は三芳町、そして南に志木市にそれぞれ接しています。海拔は約4m～25m・東西約7km・南北約6.8km・面積約19.7平方kmです。

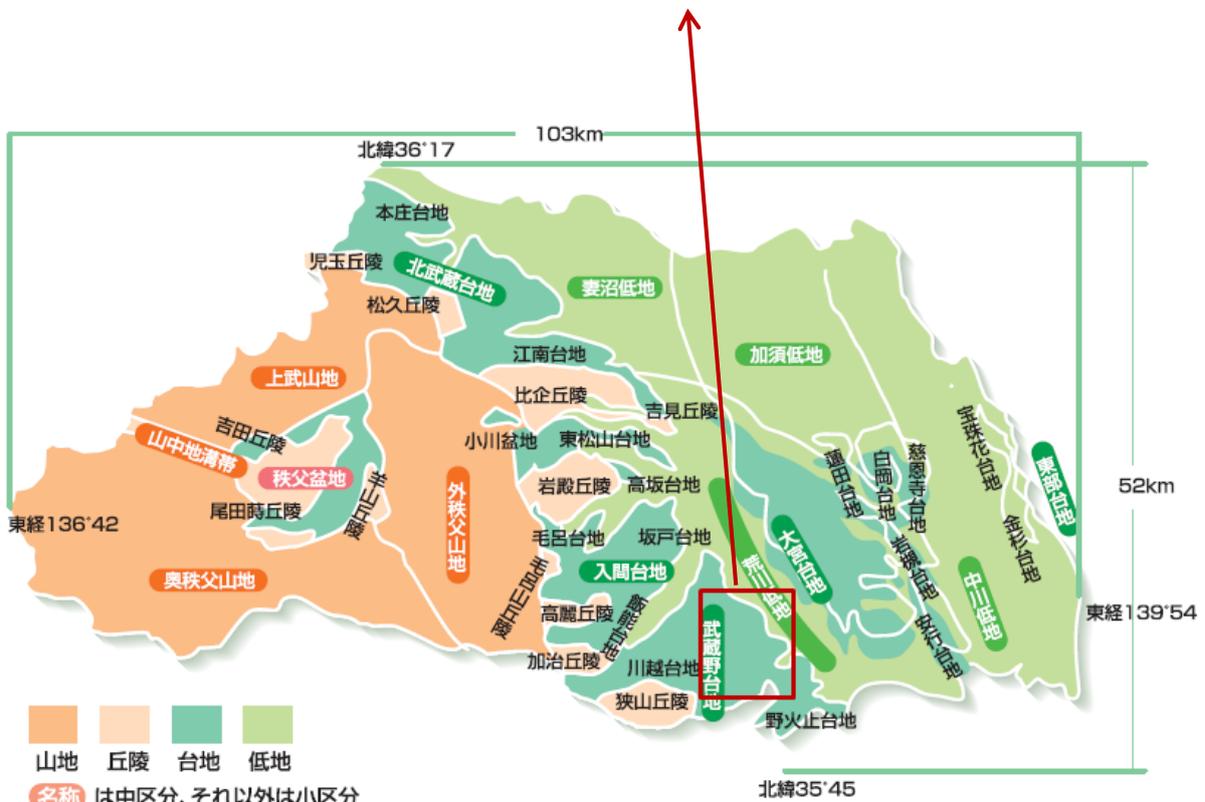


■地形

富士見市は、地形上は武蔵野台地にあります。関東平野の荒川と多摩川に挟まれた地域に広がる台地をいいます。範囲は東京都の西半分と多摩地方のほか、川越市や所

沢市、入間市などの地域を含んでいます。武蔵野台地の北部は水の流れでは新河岸川流域の流れに属しています。この流域の上流部は狭山丘陵であり、柳瀬川、砂川堀が始まり、新河岸川に流れ込んでいます。

富士見市の大きな特徴は、新河岸川流域の下流部から荒川の右岸にかけて、のどかな田園地帯が広がり、豊富な水と緑に恵まれ、富士見市の豊かな環境を育んできました。



資料：埼玉県の地形区分と名称図(1975 村本達郎氏による)

■地質

富士見市の地質にかかわる文章には、必ずでてくる言葉として「ローム」あるいは「ローム層」があります。関東地方全域に分布しているので関東ローム層と言ひ、それは火山灰のことです。

由来は明治14年東京大学にきていたドイツの学者が、構内の土壌を見て氷河によるものと考えて「砂混じりの埴土」と言う農業用語を適用しました。その後の研究でマグマの結晶した鉱物が入っているので、火山灰であることが分かりましたが、ロームという言葉はそのままひきつがれました。

■富士見市の地形の特徴である七沢

富士見市の地形の特徴である七沢は、権平沢・唐沢・上沢・羽沢・柿沢・関沢・節沢（南沢）です。湧き水の浸食による地形です。

※柿沢の場合は少し違うようです。権平川が富士見郵便局辺りでカギ型に曲がっていたので、この辺りを「カギの沢」といっていたのが、いつの頃からか「柿沢」になったといひます。

記載日：2013/11/7

この内容は、「郷土富士見検定問題集」「郷土富士見検定問題集 第二集」から抜粋し、記載しています。また補足資料として地図（タウンデータ.NET、ジオテック株式会社、埼玉県）を利用させて頂いております。